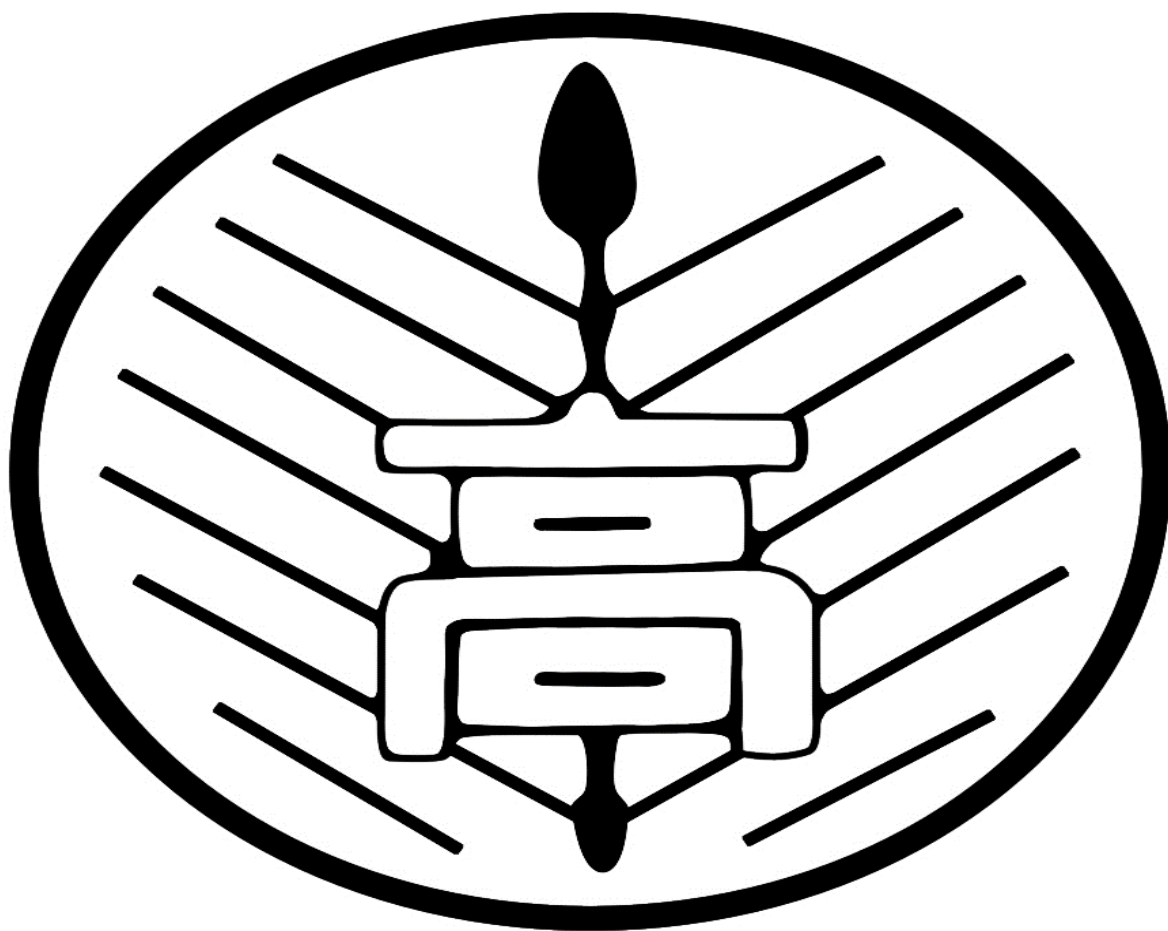


CHOFU MINAMI

BASEBALL CLUB



東京都立調布南高等学校

〒182-0025

東京都調布市多摩川6-2-1

TEL 042-483-0765

FAX 042-483-7091

調布南高校野球部部訓

『驚心動魄』～感動を生む集団へ～

驚心動魄とは・・・人を心の底から感動させ、魂を揺さぶること。

高校野球を通じて、多くの人々の心を動かし、魂を振るわせたい。
挨拶など基本的なことから徹底し、感謝の気持ちを忘れず全力で
物事に取り組むことが「感動を生む集団」になる一歩である。

- ・一人の人間として基本的ルールを守り、誠実な人間になる
- ・感謝の気持ちを忘れず、元気よく気持ちの良い挨拶をかわす
- ・何事にも失敗を恐れず、自分・仲間を信じて前向きに行動する
- ・最高の青春。文武両道を目指し、野球・勉学・行事に全力で取り組む

調布南高校 硬式野球部 指導者

監督／加藤 洋章 (カトウ ヒロアキ)

1987年生まれ

出身校 都立立川高校－國學院大学

都立城東高校助監督、都立日野高校部長兼助監督

令和4年4月より都立調布南高校 赴任

令和4年7月(新チーム)より都立調布南高校野球部監督 国語科教諭

指導実績

夏(選手権大会)

第95回東東京大会ベスト8(城東)・第97回西東京大会ベスト16(日野)・第100回西東京大会ベスト16(日野)

秋季大会

平成28年度ベスト4(日野)・令和2年度ベスト16(日野)

春季大会

平成28年度ベスト16(日野)・令和29年度ベスト16(日野)・令和3年度ベスト16(日野)

外部コーチ／中沢 学 (ナカザワ マナブ)

1969年生まれ

都立翔陽高校コーチ(8年)・都立調布南高校コーチ(7年)

内外野守備・バッティングを中心に指導

ピッチングコーチ／山本 幸正 (ヤマモト ユキマサ)

1974年生まれ

堀越高校－阪神タイガース(1992年ドラフト5位指名)

人物紹介

堀越高校3年時の1992年春に、東京No.1ピッチャーと注目されて、第64回選抜高等学校野球大会へ出場。

1回戦、同年に阪神タイガースにドラフト1位指名された安達智次郎に投げ勝ち、神戸村野工業高校に勝利。2回戦、星稜高校戦で敗退したものの、松井秀喜を第3打席まで凡退させたことで一躍注目。同年のNPBドラフト会議で、阪神タイガースから5位指名を受けて入団した。背番号は61。

指導内容

投手に必要な5つのスキル(制球・球速・球種・守備・牽制)を磨き上げるサーキットを中心にサポート。

選手の行動プロセスに重きを置き、適時助言をする指導に重点を置いています。

調布南高校 野球部について

部員数 38人 令和8年6月現在

	48期	49期	50期	
詳細	3年	2年	1年	合計
選手	11	8	15	34
マネージャー	1	1	2	4

※ 中学3年生 入部希望者はお読み下さい。

調布南高校硬式野球部は多くの人を感動させる試合ができるよう、日々の練習をチームスローガンである「驚心動魄」の精神で取り組んでいます。高い目標を目指す中でチーム全員が団結し、学年通じて仲が良く、アットホームな野球部です。(初心者部員も数名います。)
高校野球に全力で臨むとともに、勉学も学校行事も全力で取り組みたい前向きな生徒を待っています。

またコーチとして、元プロ野球選手である山本幸正さんに月3~4回の指導をお願いし、ピッチャー中心に高いレベルの技術指導を行っています。ピッチング・バッティングの動画解析による指導も行います。

高校野球の舞台で早く自分の実力を試したい! 今はまだまだだけど絶対に成長して強豪校を倒し、あこがれの舞台を目指したい! という下克上魂があり、野球が大好きな中学生は、ぜひ調布南高校野球部に入部し、文武両道し、そして青春しましょう!

練習・試合について

・練習日は火・水・木・金・土・日 (シーズン中の土日は練習試合(遠征))
※土曜授業がある土曜日は半日練習

・平日の練習は火・水・木・金 15:45~18:30
※・月曜日は休養日 ・朝練は基本なし ・髪型自由

・週に1度程度、尽性園野球場(徒歩20分)で実践形式メインの練習を行う

効率よくメニューを組み、限られた時間で最大限の成長を目指す。
そして高いレベルの文武両道を心掛ける。

調布南高校

グラウンド 本校校庭 (100m×50mの長方形グラウンド)

設備 マシン3台・センター奥にバッティングゲージ&ブルペン・トレーニングルーム

尽性園 (ジンセイエン) 野球場

グラウンド 左翼91m・右翼84m・中堅108m 観客席 内野長椅子席が2~5列

付帯設備 ブルペン (2ヶ所) ・バッティングゲージ (1ヶ所) ・手動式スコアボード・1・3塁側ベンチ

公式戦戦績一覧

	春季大会	夏 選手権大会	秋季大会
2018年	一次予選1回戦 (都拝島)	ベスト16 (国士館)	ブロック決勝 (都南平)
2019年	震災の影響	2回戦 (都成瀬)	ブロック1回戦 (昭和一)
2020年	コロナの影響	1回戦 (錦城)	ブロック1回戦 (日本学園)
2021年	コロナの影響	3回戦 (都東大和)	本大会進出 本大会1回戦 (正則学園)
2022年	本大会進出 本大会2回戦 (明大中野八王子)	2回戦 (都小平南)	ブロック1回戦 (都江戸川)
2023年	本大会進出 本大会1回戦 (日本ウェルネス)	2回戦 (日大鶴ヶ丘)	ブロック1回戦 (都文京)
2024年	ブロック1回戦 (日本学園)	3回戦 (國學院久我山)	ブロック1回戦 (都昭和)
2025年	ブロック代表決定戦 (開成) 激闘サヨナラ負け	3回戦 (日大桜丘)	ブロック1回戦 (東京) 激闘タイブレーク負け
2026年	本大会進出 本大会3回戦(淑徳) ベスト32		

2018年夏の大会にて都武蔵村山・都松原・都武蔵野北を撃破し、ベスト16入り。
2021年・2022年と安定して部員が入り始め、2021年秋にブロック優勝を果たし本大会進出。

2023年春もブロック優勝し、本大会に進出。日本ウェルネス戦で最終回3点差を追いつき、延長の激闘の末、敗戦した。その試合で注目され、「報知高校野球」で取り上げられた。

2024年夏は2回戦をコールド勝ちし、3回戦でシード校である國學院久我山と対戦。5回まで2対2で、終盤突き放され敗戦したが、9回まで1点を争う展開の好ゲームをし、応援して下さった多くの方に感動したと言っていただけの試合をすることができた。

2025年春は代表決定戦で開成高校相手に9回まで激闘のシーソーゲームの末、サヨナラ負けを喫した。

2025年秋は前年東東京ベスト4の東京高校と最終回粘りの攻撃で同点まで追いつく底力をみせた。しかし延長タイブレークにもつれる接戦の末、悔しい敗戦となった。

ただ着実にチーム力が上がっていることを実感できる試合にもなった。

2026年春ブロック予選は2試合1点差ゲームをものにして優勝、勝負強さをみせて本大会進出を決めた。

本大会初戦、葛飾野戦では4点差の最終回に5得点し大逆転勝利を収めた。続く2回戦ではシード校である明大八王子相手に一步も引かない真っ向勝負をし1点を追う最終回に2得点して2試合連続サヨナラ勝ちを収めた。しかし3回戦では淑徳相手に何もできず、悔しい敗戦となった。

春季大会では調布南史上最高位のベスト32になり、調布南野球部の歴史に名を刻んだ。チームスローガンである「驚心動魄～感動を生む集団へ～」を胸に、そして春大会の悔しい負けを力に変え、夏の選手権大会では多くの方を感動させられる試合を続け、調布南高硬式野球部初のベスト8以上を目指す！